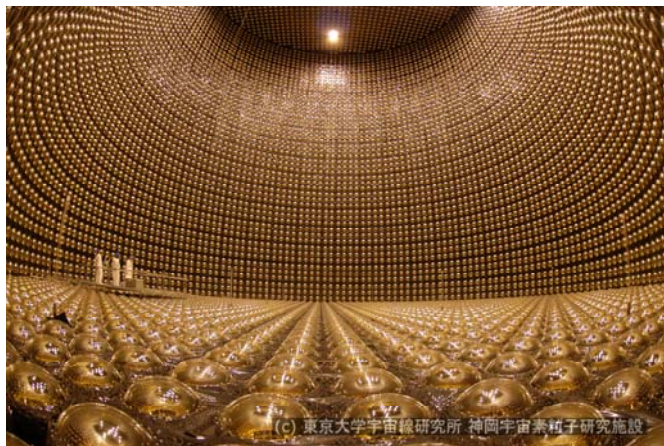


## 第 44 回可視化情報シンポジウム 特別講演のご紹介

実行委員長 新関良樹

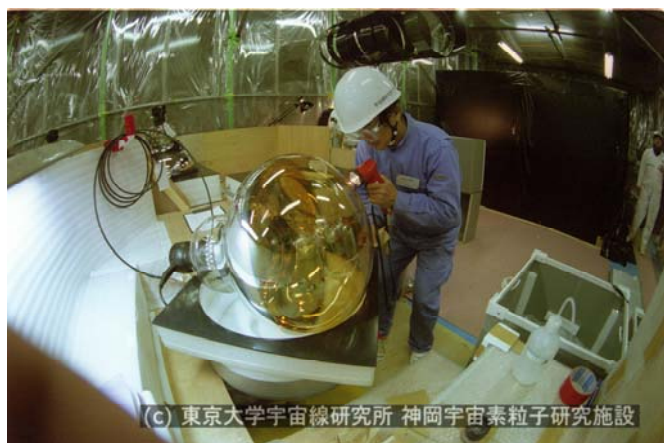
昨年、東京大学宇宙線研究所の梶田隆章所長がノーベル賞を受賞されたことはまだ皆さんの記憶に新しいと思います。それとともに「スーパーカミオカンデ」の名も誰もが一度は耳にしたことがあるでしょう。宇宙や物質の謎を探る目世界の先端である「スーパーカミオカンデ」は岐阜県山中の神岡鉱山内に建設された巨大な検出器であり、2002年にノーベル賞を受賞した小柴昌俊博士による「カミオカンデ」を大幅に発展させた設備です。



無数の光電子増倍管が取り付けられたスーパーカミオカンデのタンク内部  
(写真提供 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設)

「神岡」(正しくは東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設)では、これらだけではなく、スーパーカミオカンデを使って加速器で人工的に作られたニュートリノをとらえたり、暗黒物質(ダークマター)の正体解明に迫る実験など、数々のプロジェクトが進められており宇宙線・素粒子研究で世界の先端を走っています。「カミオカンデ」をさらに発展させるだけでなく、さらに一桁大きい「ハイパーカミオカンデ」の計画も進められており、今後も世界を驚かせる成果が発表されることが期待されています。

今回、同施設の施設長である中畑先生をお招きして、神岡でこれまでどんなことが行われてきて、今何が起きているか、これからどのようなことを目指しているか、について「可視化」を交えながら語っていただく機会を得ました。さらに、光電子増倍管に代表されるこれらの実験を具体化するセンシング技術を支えた浜松ホトニクス殿からは、大村さんをお招きしてセンサ技術、計測技術の観点からお話を頂戴します。



巨大な20インチ光電子増倍管の最終検査

(写真提供 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設)

検出が困難なニュートリノなどを探知

して見える＝理解できるようにする工夫や技術は、「可視化」に係わる皆さんにも多めに興味のあるところかと思います。世界の先端を行く「宇宙からのメッセージを見る」研究について、宇宙線研究と計測技術の両面からスポットを当てた貴重な機会だと思います。皆様のご来場をお待ちしています。

参考文献：宇宙線研究所神岡素粒子研究施設 HP(<http://www-sk.icrr.u-tokyo.ac.jp/>)